

3年生「看護医療総合」(4. 19)

『ルポ 看護の質——患者の命は守られるのか』

(岩波新書 小林美希著) を読んで！！

●医療界の現状についての資料を読んでとても衝撃を受けたと共に、看護師になりたいという思いがより一層強くなりました。まず医療界の現状の一つ目として、医療職の立場にヒエラルキーがあるということです。理学療法士、作業療法士、介護士などの職業が、看護師や医師などの職業よりも下に見られている現状があり、看護師では気づくことが出来なかった患者さんの体の状態について指摘したところ、指摘を受け入れて貰えなかったというケースがありました。少しの工夫で患者さんの容態が良くなるのが分かっているのにも関わらず、ヒエラルキーがあるために受け入れられない現状を知り、「チーム医療と言う言葉はよく聞くが、本当にチームとして成り立っているのか」と、大きな疑問を抱きました。

二つ目に、患者さんに対しての病院の対応についてです。容態の悪い患者さんに対して、すぐに死なせてはベッドが空いて稼働率が下がってしまうからと、命を持たせようとするが、コストを抑えるために、一日一本500mlの生理食塩水の点滴だけという、必要最低限のことしかしないという対応をしている病院があるそうです。そのような現状について、まるで見殺しにしているようだと、とても胸が痛くなりました。

このような現状を踏まえて、私の将来についてももう一度よく考えてみました。このまま看護師になったとして、このような現状に実際に晒された時に過酷さに耐えられるのかと思いました。しかし、一番強く感じたことは、このような現実を知った私たちの世代が変えていかなければいけないということです。そのためにはまず看護師になって実際に働かなければ辛さや苦しい現状も、本当の意味ではわからないと思い、私はもう一度強く看護師になろうという決意を固めました。そして、憧れだけでは務まる仕事ではないとも思い、このような現状はこれから看護師になる全ての人を知るべきものだと考えました。

●私はこの文を読んで改めて看護師になるという意志が強くなりました。これまでに受けた医療の講義では良い部分だけを切り取り、伝えられていたということを知り、また私たち(看護する側)自身のケアも必要だと学びました。「分担」ではなく「分断」。チーム医療に取り組んでいる姿勢を憧れるや否や、現実をつきつけられました。・・・「チーム」に憧れ、この一年、共有を大切にしてきた私には今後の進路を一度考え直すには十分なものでした。特に印象に残っている箇所は介護士の「意見を言えば介護だろとなじられる。そこに、チーム医療なんてない」という言葉です。ここでは看護側の人数が足りず深夜全館を1人で見回る看護師の実態が書かれています。ここにもチーム医療や思いやりの欠如がみられます。だからこそ、冒頭にある通り私は看護師になろうと誓いました。考え直しはしましたが私にはその道を逸れるという考えはありません。私1人の力で訴え、何かを変えられることができるかは不明ですが、これまで鍛えてきた共有する力と私という1人が何人分の力にもなって動くことは可能です。私たちがこうしている間にも食事する暇もなく働き続ける医療関係者の方々に感謝を忘れず、頼りある看護師になれるよう日々努めたいと決意することができました。

●今回資料を読んで、これが医療現場の実態なのかと衝撃を受けた。ナースコールが鳴っても仕事が押し仕事のできない人とされるため、とらない、バイタルチェックも介護職がやる、患者とコミュニケーションを取ることが看護師としてあるべき姿であるが実情はそうでない。看護師になる人は患者と誰よりも関わり、医療従事者としての責任を果たそうと心得ているが、そのようにできないことは看護師の仕事を奪っていることになる。そんなことがあって良いのだろうか。いつから看護師は効率重視の仕事になってしまったのだろうか。この現状に目を背けてしまいたい思いである。私が注目したいのは「チーム医療」である。近年、大学でもチーム医療が学べることを売りに押し出していることが多い。しかし、この資料では「介護職と医師が話をすることはほぼ皆無だ」と書いてある。また医療職種間にも格差があることも事実だ。介護職が医師に意見すると見下した返事がくる。こんな関係がチーム医療として機能するはずがないと思う。ここで疑問に思ったことがある。チーム医療を売り出している大学の附属病院ではチーム医療が成り立っているのであろうかということだ。大学で学ぶ価値はあるかどうか、大学を決める際に考えたいことだ。この現状を知り、私は看護師になりたいと思う。看護師になったら、私が思う患者さんを第一に、他職種と連携をとりながら看護をしたいと思う。コミュニケーションをとり、バイタルサインをし、介護職に任せるだけの人にはなりたくないと思う。今回の資料は将来についてよく考えるきっかけとなり良かった。

